

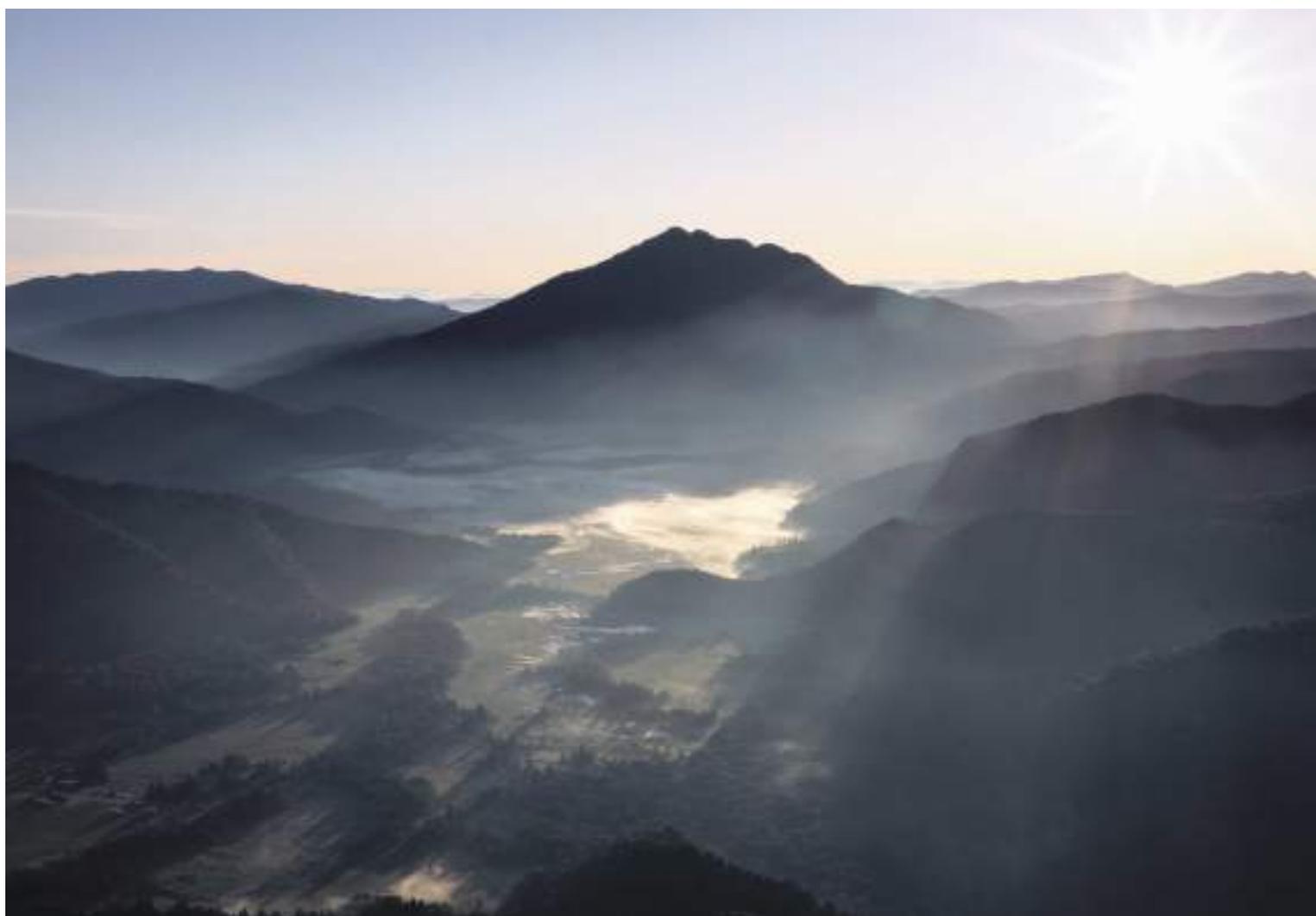
はるかな尾瀬

— 目 次 —

- 02 特集
尾瀬の自然を学ぶ・守る・楽しむ
- 04 リレーエッセイ
尾瀬の土壤動物
- 06 現地情報
- 08 連載コラム
 - ①尾瀬時間を体感する
 - ②あなたがガイドでヨカッタ！
 - ③絶対安全運航
- 10 エッセイ尾瀬好日
 - ①尾瀬がスタート
 - ②年はとってもまだ若葉
- 12 尾瀬ボランティア情報
- 13 TOPIX
- 14 尾瀬保護財団からのお知らせ



2011.1 vol.15
(財)尾瀬保護財団



今号の特集では、財団スタッフが愛用している装備品を4つの視点から紹介します。
今年の尾瀬ハイクの参考どうぞ！



尾瀬といえば…植物の宝庫！
木道脇に咲いている可憐な花々に、「コレはナンだろう？」と思つたこととはあるハズ。
でも大抵の方は疑問どまり。またはデジカメで撮影して後で…なんて人が大半のはず。しかし、植物の微細な特徴をデジカメで撮っておくことは難しいし、記憶を頼りに後で図鑑を見ても種を特定することは出来ないだろう。
という事で、私はザックの中に頼りになる図鑑を入れて、現場ですっかりと分類するようにしている。
私のオススメは、「フィールド版日本の野生植物(草本・木本)」（佐竹義輔著・平凡社）。ちよつと重いけど写真と検索表があり、分類のポイントがきちんと整理されているし、何よりもこの2冊で全てが網羅されているので、色々な図鑑を揃える必要がないのもgood！ 高校時代の英和辞典のように使い込むほどに愛着の湧く2冊なんです。
(安類 智仁)

- ①メジャー(ダイヤメーターール): 長さを測るだけでなく、樹木の幹にまわせば直径がひとめでわかるようバイメジャーになっています。
- ②野帳: 現場での記録はノートに書き留めるようにしています。愛用は定番のコクヨ測量野帳ですね。ビニール製ブックカバーを付けて汗でヨレヨレにならないようにしています。
- ③ペン: 野帳とセットで使うモノですが、基本はシャープペン。赤・黒のボールペンも使うし、できるだけコンパクトにしたいので、プラチナのダブルR3アクションを10年も使ってます。
- ④顕微鏡: 微細な部分を確認する場合はルーペよりも顕微鏡を使います。これなら60~100倍でLED付なので自然の細かな造形を見ることが出来ます。
- ⑤折れ尺: 1mの物指しが20cmに折りたたまれたもの。植生調査の必須アイテム! 尾瀬で見つけた珍しいモノを撮影する場合でもこれを横にければ大きさが一目瞭然。
- ⑥ルーペ: 通常の観察にはこちらを使用。私の場合は3枚レンズタイプを愛用しています。これなら3~15倍まで組合せて使うことができます。



その他にもザックの中には…

学ぶ

自然を

守る

コース上にトイレがない至仏山や燧ヶ岳など尾瀬の山に登った時に、やむを得ず登山道脇でトイレを済まし、「山を汚してしまったな…」とつぶやいた経験があるのではないのでしょうか。
そんな時に役立つのが、携帯トイレです。登山者のし尿は、自然にとつて大きな負担になりますが、この携帯トイレを持っていれば、山を汚すことはありません。

携帯トイレは、吸収剤を含むゴミ袋のような大きなビニール袋と高密度性のジッパーで構成されているものがナイス。高密度性のジッパーを備えた携帯トイレであれば、使用済みの携帯トイレをザックの中に入れておいても、汚物や匂いが漏れることはありません(私の経験上、漏れは一度たりともありませんよ!)

また、携帯トイレ自体は軽量でかさばるものではありませんので、パッキングの邪魔になりません。注意したいのは、尾瀬では使用済み携帯トイレの回収場所はありませんので、自宅まで持ち帰り、可燃物ゴミとして処理しましょう。

さあ、みんなで携帯トイレを持ち歩いて、スマート&エコなハイカーを目指しましょう!

(小野里 典明)





マイカップにインスタントコーヒーを入れ、保温ボトルからお湯を注ぎ、ゆつくりと一口。青空の下「うーん、うまい。いいねー。」と周囲の景色に目を奪われつつ、満足感からの独り言。時間に余裕のない行程により、「歩いた」ということだけが思い出になってしまった方は少なからずいるのでは？

自らの体力に合わせ、時間に余裕を持った計画を立てることで、自然と親しむ機会(時間)が増し、意外な発見や驚きが加算されるかも知れません。例えば、人気者のオコジョ、ワタスゲの綿毛が舞う瞬間に出会えたり等。

今年、我がザックの中に追加された「チタン製カップ、保温ボトルとインスタントコーヒー」のセットは、楽しさへの期待を増やし、無理のない計画を立てるのに一役かっている装備品です。

天候の変更により途中で計画の変更を余儀なくされることもあり、ますが、ルールやマナーを守った上で、自分なりの楽しみ方を見つけ、「楽しもう」という気持ち」とともにいざ尾瀬に！

(渡辺 健二)

楽しむ
尾瀬の

安全に

尾瀬では皆さんがツキノワグマによる被害に遭わないようにクマ対策員が追い払いなどの活動をしています。クマを追い払う時には①轟音玉(大きな音がする火薬玉)や②クマ撃退スプレー(中身は唐辛子の成分など)を使っています。轟音玉の取り扱いには講習会の受講が必要ですが、クマ撃退スプレーは登山用品店などで特別な許可がなくても購入できます。取り扱い方法に注意は必要ですが、クマが出る場所によく行く方は持ってもいいのではないのでしょうか。

クマ撃退スプレーは基本的にはクマに襲われそうになったときに使うものですが、クマに遭わないようにするためには音の出る鈴やラジオを持っているといいでしょう。ただ見通しのよい所や人が多い所では音を止めて鳥の声や沢の音に耳を傾けてください。

(原田 林太郎)



※クマ撃退スプレーの使用イメージです



リレーエッセイ

「尾瀬の土壤動物」

斎藤

晋

尾瀬保護財団の発足とともに、第三次の総合学術調査が企画されました。調査団の団長を大島康行教授が引受けてくれることになり、私も団のほうの仕事をやることになりました。そして、調査では、土壤動物を担当することになりました。

土壤動物といえば、第一次の総合学術調査のことをふれないわけにはいきません。というのは、このときに私の恩師の北沢右三先生ほか森林や湿原などで土壤動物の生態学的な調査を行っているからです。報告書である学術振興会発行の「尾瀬ヶ原」（1954年）のなかの「尾瀬ヶ原地方の生態学的研究」がそれです。ここでは、森林の場合は林床動物ともいっていますが、この動物群集の現存量（生体量、バイオマス）、密度、種類組成、食物連鎖などが述べられていて、当時としては画期的な内容でした。学生の時には何度と

く読んだもので、いまでも大好きな論文の一つです。

それまでは、このような多くの植物群落における土壤動物の生態を明らかにした地域はないので、尾瀬が土壤動物生態学の発祥の地であるといつて良いでしょう。

この土壤動物は、土壤のなかに生息している動物であり、多くの分類グループが構成メンバーとなっています。よく眼につくのは、ミミズ、ヤスデ、ムカデ、カタツムリ、クモ、ワラジムシ、セミやコガネムシなどの昆虫の幼虫などでしょうか。眼につくだけでなく、体も大きいので、大型土壤動物と呼ばれています。これら以外に、より小さいダニ、羽のない昆虫のトビムシ、ミミズの仲間ですらに小さいヒメミミズや線虫などもあります。これは、中型土壤動物と呼ばれています。

これらの動物たちの食物の源をたどっていくと、最後は落葉や落ちた枝などとなります。この落葉などを、微生物などとともに食べ、分解して、植物の栄養分に変えています。これは、生態系の物質循環の重要な分解の過程で、生物の生産に対するものです。生態系の理解には欠かせない過程であり、群馬県の狙っている「循環型社会」と同じ内容です。

この物質が循環すると同時に、太陽からのエネルギーは流れます。エネルギーの流れと物質循環は、生態系のもっとも重要な機能といえるでしょう。したがって、土壤動物は、陸上生態系において、光合成をおこなう植物とともに重要な役割を担っています。

第三次の総合学術調査では、この土壤動物の大型と中型の群集の呼吸量と、これを基にして落葉を食う（腐食性）動物の摂食量を求めることにしました。まず、尾瀬ヶ原のヤマドリゼンマイ群落、ヌマガヤ・オゼザサ湿原、ヨシ群落、ホロムイスケーヌマガヤ群落と近くのブナ林において、密度と現存量を出しました。これから、それぞれの動物グループの平均体重が求められます。年間を春、夏、秋の二ヶ月ずつと六ヶ月の冬とし、春、夏、秋のそれぞれに密度などを求め、冬は春と秋の中間の密度としました。動物の呼吸率は、温度と体の大きさ（重さ）によって変わるので、これらを補正して計算します。また、動物のグループによって、呼吸量と生産量との関係などが異なるので、私たちの今までの研究成果だけでなく、ほかの研究者の結果も用いました。詳細は省きますが、仮定も入れて積上げ法で、腐食性動物の年間の摂食量（分解量）



▲大型土壌動物の方形区 (25×25cm)。
ハンドソーティングで深さ20cmまで。

を求めました。すると考えていたのより、湿度は高い数値を示しました。ヤマドリゼンマイ群落の分解量のほうがブナ林より高かったのです。おそらく、これはヤマドリゼンマイ群落の冬には枯れる地上部の現存量が高いことと、ミミズが多く生息していたことによるでしょう。



▲中型土壌動物(線虫とヒメミミズ)は5×5cmの方形の採土缶で土を採取し、パールマン装置で抽出。深さ12cmまで。



▲中型土壌動物(ダニやトビムシほか)はリター層25×25cmで採集。その下は円筒型採土器で土壌を採取し、ツルグレン装置で抽出。深さ15cmまで。

筆者紹介
 斎藤 晋(さいとう すずむ)
 群馬県立女子大学名誉教授
 専門は生態学
 著書は「生産の生物学」、「尾瀬」、「生態学への招待(共著)」、「土壌動物学への招待(分担)」など



▲ヤマドリゼンマイ群落(手前)と燧ヶ岳

原をわたる風だより 山の鼻ビジャーセンターより

植生復元(至仏山・熊沢田代)を担当して

今期、至仏山東面登山道と燧ヶ岳熊沢田代の植生復元に参加しました。これまでも、何度となく至仏山での植生復元は試みられてきましたが、急勾配の斜面を流れる水への対策が難しいことと、貧弱な土壌の中では思うように植生復元が進んでいないのが実情です。

環境省の事業である、熊沢田代の植生復元は今シーズンで4年目となりました。昨シーズン施工された緑化ネットの間からは、着実に小さな緑が芽吹いている姿を確認できました。また、緑化ネットが張られている場所では登山者の踏み荒らしが軽減されているように思えました。

作業をしている私達だけではなく植生復元には、登山者一人一人の目への心がけが大切になってきます。いつかは至仏山登山道にも緑が戻ってくる事を期待したいです。(萩原 岳史)



▲至仏山植生復元作業のようす
土壌流出防止等のため緑化マットを敷設した

尾瀬の仕事に戻って

7年ぶりの尾瀬現地での仕事も11月初旬で終了です。変わらぬものの、変わっていたことが様々あり感慨深いシーズンでした。以前(H5〜14年度)お世話になった方々の多くに山で再会でき、変わらず声をかけていただけたことはいちばん嬉しいことでした。一方、あまりの変化に驚いたのはやはり二ホンジカの増加です。前回勤務の後半に尾瀬沼や下田代方面で又タ場が目立ち始め、増加要因のひとつに地球温暖化があつていました。温暖化対策の仕事

をしていた数年間も気にはしていませんでしたが、シ力道や又タ場の増加を目の当たりにしてあらためて、自然や環境への「ヒト」の関わり方の課題を再認識した今季でした。

(玉珠山 恭子)

今季を振り返り

山ガールと言う言葉やその姿をご存知であろう。巻きスカートに瀟洒なタイト姿で歩く若い女性たちだ。街からの発信だろう色遣いの鮮やかな姿は、これまでの登山者の風体とは一線を画し軽快妙味である。この今どき大流行の山ガールを「平成の山女」と呼ぶならば、いつぼつに「昭和のワングル部」の存在を忘れてはならない。ハイキングブームを彷彿とさせる面々はそのスタイルを大切にして悠々と闊歩。

そんな老若男女を問わない大盛況が続いた賑やかな尾瀬ヶ原にも静かに秋の訪れがあり、そしてまもなく人を寄せつけない厳しい冬を迎える。

シーズンを通して、山の鼻ビジャーセンターにはいろいろな用件でお客様が見える。その中で、登山靴の靴底が剥がれたので何とかして欲しいと駆け込んでくる方がいる。その

件数の多いことに驚かされた。簡単な応急処置を施していると、ぼつり「久しぶりに履いて来たの…まだ何回も使つてないのに」と、ため息混じりに話される。

「経年劣化」。製造されてから3〜5年くらい経つと使用回数が少なうとも破損しやすい。メーカーからの警鐘もとどかないのか、まさか…と思つている。暫くぶりの「お楽しみ」には十分な注意と準備が必要なのよである。

オシャレな用具を入念に選ぶように行動計画もしっかり準備して、それぞれ尾瀬をたっぷり楽しむお客様が大勢来られることを待ちたい。

(島野 卓生)



▲尾瀬で目立つようになってきた山ガール

おじじよだより 尾瀬沼ビジターセンターより

初めてのビジターセンター生活を振り返って

早いもので、半年間のビジターセンターでの生活も、もうすぐ終わろうとしています。最近は下山準備のための大掃除や荷物降ろしなどの話題でいっぱいです。振り返れば何もかもが新鮮だった導入研修、ゴールデンウィーク明けの5月6日、期待を胸に膨らませて尾瀬保護財団のある群馬県庁へ向かいました。二日間、にわたる入山前の導入研修では、尾瀬保護財団の概要や活動、また尾瀬でのインタープリテーションなどについての説明を受けました。そして心躍る上山、快晴に恵まれた5月8日の朝、待ち望んでいた尾瀬沼へと向かいました。鳩待峠でヘリ荷の準備をして大清水へ移動し、まだ雪の残る道を一ノ瀬へと歩きました。昼食の後、尾瀬沼に向けて三平峠を登ると、まず目に飛び込んで来たのは、真っ白な尾瀬沼と雪に覆われた燧ヶ岳の美しい姿でした。早速、最初の休日を利用して燧ヶ岳に登り、山頂

からの素晴らしい景色に酔いしれました。ベテラン職員につれられて新入職員全員で行った降雪の中の尾瀬沼巡回、そして尾瀬情報づくりとセンター職員としての仕事も始まりました。



ミズバシヨウが咲き、緑の湿原に変わった6月、始めて朝の自然観察会を担当し、また木道で転倒し足を怪我したお客さんのところへ駆け付けて応急処置をし、防災ヘリでの吊り上げ救助にも初めて立ち会いました。ワタスゲの果穂がさわやかな風に揺れる7月初め、夜のスライドシヨも担当し、何かと忙しく過ぎていきました。

コオニユリやヤナギラン、ワレモ

コウなど様々な花々が咲き誇った8月、尾瀬沼は盛夏の賑わいを見せていました。エゾリンドウ、ウメバチソウ、草紅葉と移り変わって行った9月。木々の紅葉が始まり今シーズン最後の輝きを放った10月。そして今、尾瀬沼周辺は静かにカラマツの色づきで覆われています。また今シーズンは暖かい秋で、燧ヶ岳の初冠雪も待ち望まれています。そんな秋の深まりとともに、様々な思いを胸に半年間にわたる尾瀬沼生活が終わります。(高島 尊)

2010シーズンの思い出

皆さんは、普段山に登るとき、どんなことを考えますでしょうか。人それぞれに思いは違うことでしょう。普通に考えますと、やはりお天気ではないでしょうか。雨や霧ではなんとなく登ることを迷うのではないのでしょうか。

沢山ある今シーズンの思い出の中で、特に印象に残っていることは、9月2日に登った至仏山と、10月2日に登った会津駒ヶ岳になります(写真はその時に撮影したベストショットで、駒ノ大池と会津駒ヶ岳です)。どちらも快晴で最高の気分を味わいました。何回同じ山に登っても、その季節によって、情景は変化し、私たちを楽しませてくれます。

周囲に目をやったり、何回か後ろを振り返りながら景色を楽しんだり、山頂でいたたく食事など、天気次第で気分は変わるものです。尾瀬(尾瀬以外の山もそうですが)の天気の予測は、日々尾瀬にいる私たちにとっても難しいので、登山当日に山が見えると、やはりほっとします。

尾瀬のシーズンは半年と短いですが、その限られた季節の中で、訪れた人を魅了し、そしてあなたかく、私たちを迎えてくれます。今シーズン入山された方は尾瀬にどんな印象を感じたのでしょうか。来シーズンも是非尾瀬に足を運んでいただき、大いに満喫してください。(桜澤 仁)



(桜澤 仁)

連載コラム

認定ガイドがススめる っておきの尾瀬

その5 「尾瀬時間を体感する」 (匂持雅信 (尾瀬自然ガイド))

(あるきんぐクラブ・ネイチャーセンター尾瀬ガイド部 Tel 0278-52-3328 URL <http://www.morigasuki.org/>)

A1 「その日のその時の尾瀬を素直に受け止めること」が楽しむ上で大切です。四季折々の風情、雨の日の風情、そこで出会う草花や生き物たちなどを「じっくりと観ることを楽しむ」「ゆっくりと音を聴くことを楽しむ」など。距離を歩けば多くの出会いがあるとは限りません。時には動かずにそこに居座ることも楽しいです。時間を気にしない尾瀬歩きは何倍も楽しくなること間違いなしです。

A2 目的によって異なりますが、私の「オススメする尾瀬」のキーワードは時間です。忙しい日常から距離をおき、ゆったりと「尾瀬時間を体感する」過ごし方はいかがでしょうか。かつては賑わったアヤマ平は、今では静寂の時を迎えています。行き交う人もまばらで「尾瀬時間を体感する」には最高の場所です。

A3 難しい質問ですが、より尾瀬を満喫出来るような物としては、珈琲好きの人なら、携帯ポットに淹れて、好きなベンチでゆっくり味わいながら過ごすとか、音楽好きな人なら、尾瀬に似合いそうな音楽を選んで好きな場所で聴くなど、自分と尾瀬の融合をより表現できる物が良いと思います。マナー厳守ですが……

A4 子どもをガイドするということ



多いのですが、会話の中に「ハッとすること」や「グッとくること」が多々あります。例えば、尾瀬にある物（生き物や落ち葉、石ころなど）は持ち出し禁止なのに、「どうして水は飲んでいいの?」「といった疑問や、感想の中にある「吹き抜ける風が草を揺らす音が好き」とか、「ブナの森の緑色が印象に残った」とか、「雨の音もいいもんだ」といった「五感」で感じた感想です。体験は一人一人の主観ですが、振り返りの時間を作って一人ひとりの声を聞くと、参加者同士でも再発見があるようです。こういった事が、ガイドとして元気をもらう瞬間です。

A5 自然体でいることだと思います。尾瀬ガイドは自然を舞台に人を相手にする仕事です。人を好きになり出合いを大切にしたいと思います。

その6 「あなたがガイドでヨカッタ!」 (堤かほり (尾瀬自然ガイド))

(NPO法人A.R.S Tel 0241-78-7080 URL <http://www.npoars.jp/>)

A1 じっくり時間をかけて下調べをするより一層尾瀬を満喫できます。地図を片手にネットで見ながらエック。尾瀬保護財団HPをはじめ、ラインカメラを見たり、Twitterでつぶやきを調べたり、実際に尾瀬に行った方や、尾瀬で働いている方のブログもリアルタイムなので要チェックです。他にも尾瀬の本を読むのでもいい事前学習になると思います。時間があれば、旅行会社やアウトドアショップで開催している尾瀬のセミナーに参加するのも方法です。情報は入れば入るほどテンションも上がってきますよね。そして何より認定ガイドと歩く尾瀬を体験してみてください。お客様の要望にあわせた内容に、ガイドの個性も加わって、新たな尾瀬の魅力を発見できると思います。

A2 大江湿原のお花畑が好きです。特にタテヤマリンドウが湿原いっぱい咲いた頃には、腰を低くして視線を下げると、タテヤマリンドウの青い絨毯が湿原のごまでもも広がっているような素晴らしい景色に出会えます。また、秋の草紅葉の頃には夕暮れの大江湿原が素晴らしいです。このためには宿泊が必要ですが、ノスタルジックな表情を見せてくれる湿原でゆっくりと贅沢な時間を是非体験



してほしいですね。

A3 やはり「デジタル」でしょう。撮った画像に時間が書き込まれるので、旅の思い出や記録にも残せますよね。他には、折りたためてコンパクトになる「ひとり敷き用マット」はベンチが多少濡れていても重宝しますし、ご飯などの長めの休憩の時にはおしりが痛くならず使えます。

A4 目の病気で視界が狭く足元が見えづらいお客様を案内した時のこと。踏み外しや転倒しては大変と、私はその方の手を引いて、一歩、一歩、声をかけて歩きました。いよいよお別れの時に、「面倒かけてごめんね…ありがと…」と涙ぐむその方の手を握りあつて完歩したことを喜び合ったのですが、あなたがガイドでヨカッタ!と感謝されるのが一番嬉しいです。

A5 最近の若い女性の山歩きブームには勢いを感じます。来季はそんな彼女達を意識したガイドینگも取り組み、尾瀬の素晴らしさを紹介していけたらと思います。

[ガイドさんへの質問] Q1 尾瀬の楽しみ方、Q2 オススメの尾瀬スポット、Q3 尾瀬歩きに便利な道具・装備
Q4 思い出のエピソード、Q5 今後の抱負・目標

尾瀬には道路がなく、また、山岳地帯であるため、万が一のケガや病気、事故が発生した場合、ヘリコプターで救助されることもあり。私たちが尾瀬を楽しむ時の安心を支えていただいている群馬県防災航空隊の深津弘防災航空隊長と北爪政志隊長にお話を伺いました。

防

防災航空隊

「群馬県防災航空隊は、平成9年に発足し、火災防衛、捜索救助、救急、災害応急などを任務とし、防災ヘリコプター「はるな」を運航しています。航空隊は、市町村が組織する消防本部から派遣された9名の隊員で構成されていて、年間100件以上の出動実績があります」と防災航空隊の活動について話す深津さん。

「中高年の登山ブームの影響で、山岳での事故が多く、今年度前期の遭難救助の出動件数が増えています。過去3年間の利根沼田地域への出動は約1000件で、そのうちの「救助」は44件ありましたが、その「救助」のうちの98%が山岳救助活動で、地域別に見ると尾瀬が55%で谷川岳が24%です」と尾瀬での活動の多さを示してくれた北爪隊長。



▲防災ヘリコプター「はるな」。機体には群馬県紋章や“ぐんまちゃん”をモチーフにしたロゴマークがあり、ふるさとを守るにふさわしいデザインが施されている。

尾

尾瀬での救助活動

「プライベートで尾瀬を歩く隊員も多いことから、尾瀬の位置関係や地形などをイメージしやすく、より迅速で安全な運航に役立っていると思います。また、人命救助といえど

も、3トン以上あるヘリコプターを湿原に着陸させることは自然への負担が大きいので、傷病者をつり上げて救助しています」と尾瀬における救助活動について話す北爪さん。万が一、防災ヘリコプターの救助を待つことになった場合、私たちが注意しなくてはならないことがあると言います。

「山の中で救助を待っている方を、ヘリコプターから確認することは容易ではないので、光を発生する物や目立つもので合図してほしいです。それから、ヘリコプターが近づいてくると、強い風が当たるので、周囲の安全確認も大切です」と北爪さん。

安

全運航

最後に北爪隊長に防災航空隊員として大切にしていることを伺いました。

「防災航空隊の任務は、山岳地帯をはじめ、厳しい状況や場所での活動が多くあります。だからこそ、絶対に安全な運航を行い、無事に基地に帰ってこなければなりません。そのために、十分な訓練を行うとともに、ヘリコプターや救助用具などの点検を怠ることなく、万全の準備を整えるようにしています」と北爪隊長。

尾瀬の安全・安心が防災航空隊をはじめ、多くの方々の支えによって保たれていることを、尾瀬を訪れる私たち一人一人が理解し、安全登山への意識を高めていく必要があります。



▲防災航空隊の隊員のみなさん



▲一日の終わりに毎日行う機体の点検や清掃

「尾瀬がスタート」

多感な十代「はるかな尾瀬」の歌に魅せられ最初に尾瀬を訪れたのは記憶に間違えが無ければ1955年の春、水芭蕉が咲き乱れる頃であったと思います。当時は自家車などは勿論無く、蒸気機関車とバスの乗継でした。まさしく「はるかな尾瀬」であったことは間違いありません。

定かではありませんが大清水からの入山であったように記憶しております。何日か前に山小屋へ宿泊を予約いたしましたのですがその郵便が未着でした。当時の予約手段は郵便のみであったように思います。結果満員状態の中、廊下で寝たこと覚えております。これが最初の尾瀬との出会いでした。

その頃は自然保護活動の動きがあっても、今ほどの熱心さには及ぶべきもありません。大きな声でいえませんが釣り糸と針のみの持参で岩魚を釣ったこともありました。私の山岳活動の原点はこの尾瀬であり、この尾瀬が

その後の私の山岳活動の幅を大きく広げたものと信じております。

財団評議員の重責を仰せつかって早2期目を迎えました。この大役を何とかこなす中で多くの先輩に多くの実のあるご指導を頂きました。私の前の評議員、室賀輝男氏は山の大家であり、数ある尾瀬ルートの中でも新潟県側からのルートの良さを情熱を持って語り、そして一生懸命推進されておられました。その後任としてはいささか臆するものがありました。先輩の推薦でもあり^{じくじ}忸怩たる思いでお引受いたしたことを覚えております。また同じ評議員で居られる桜井昭吉氏も高山植物を始め、生物多様性等を含めた自然を取り巻く環境に造詣も深く、お会いする度に勉強をさせて頂いております。

先日生物多様性条約第10回締約国会議COP10が名古屋で開催されました。開発や乱獲による種の減少や絶滅。生息地や生育地の減少そしてシカやクマとの緩衝地帯であった里山の消滅。外来種や科学物質などの持ち込みによる生態系の攪乱そして誤った動物愛護運動などいろんな問題が討議されました。また一方地球温暖化により北極圏にあるグリーンランド北部の氷河から巨大氷山が分離し漂流

を始めたとか南極海では海氷の量が増えたと言うニュースを聞くにつけ様々な予想不能な事象が起きる事が懸念されます。わたしどもを取り巻く自然環境については他人事と考えず、常に謙虚に対峙したいものと願っております。

尾瀬と出会い、そして私の山との関わりも半世紀を迎え、評議員を務めながら改めて尾瀬の来し方行く末を見つめ考えたいと思っております。



▲尾瀬サミット2010で桜井昭吉氏から自然解説を受ける筆者（左から3人目）

「年はとつてもまだ若葉」

「クマが来ているので、食べ物のごみは外に出さないように」小屋の方が一張りごことに声をかけています。私たちはびっくりに、とても不安な夜を過ごしました。軽い気持ちで来た尾瀬が、自然の中にある事を感じた出来事でした。2006年8月鳩待峠から至仏山に登り、山ノ鼻に下山してテント泊した時のことです。この時期はまだ山ノ鼻への下山ができました。またこの時が私の尾瀬ボランティアのきっかけになりました。時間の都合が少しつくようになり山行を再開していた私は、山でのマナーの悪さにうんざりしていました。元気をもらいに山に行くのに町の疲れた世界を感じてしまいます。すっかり気が萎えていた私にとって、偶然参加したビジターセンターのスライドショーと翌朝の観察会がとても新鮮でした。なにより活動が組織的に行われているのにびっくりしたのでした。その後自然に関わるたくさんの方が行われていることを知り、また尾瀬ボランティアの

事も知り、やっと今シーズンメンバーに加わる事ができました。

6月の初めての研修は少し緊張しましたが、尾瀬が好きで何か役に立ちたいという目的が同じ方々が集まっているので、それはすぐに無くなりました。さらに交流会もあり、ウクレレをバックにみんなではるかな尾瀬を歌うなどして明るい気持ちでスタートを切ることができました。

若葉マークの活動は研修を含め清掃活動を4回行いました。ボランティア証をつけ火ばさみを持つと活動のスイッチが入ります。なれないのでつい下ばかり見てしまい、楽しむ余裕があまり持てませんでした。また、火ばさみを置くとホットするのも事実です。

ごみの多くは休憩場所にあるのですが、お休みの方に「これは私が落としたんじゃないのよ」など念押しされたりして思わず笑ってしまいます。そこでがんばって下さいなと声をかけていただくとパワーが充電されます。

自主活動は嫁さんと一緒に歩く事がほとんどです。若さでしょうが、私よりゴミの発見が早く、回収の指示もされてしまいます。来シーズンは登録を薦めたいくらいです。

火ばさみはボランティアの目印でもありません。みかけると思わず声をかけたくなる

す。先が鋭いのでみなさんどのようにされているか気になっているのですが、私は水道ホースを短く切ってかぶせています。実はいろいろやっていたら、嫁さんの水道ホースがいじやないの一言で決まったものです。使い勝手もよいのでみなさんにもおすすめします。

尾瀬に足を運ぶうち、尾瀬が大きく変わっている事がわかりました。交通手段の整備、山小屋の予約制、テントサイトの整備、混雑でいやな思いをした事が、嘘のようです。また、尾瀬についてももっとたくさんの方が知りたくて、フィールド講座にも参加しました。地味ですが、このような活動の積み重ねがはじめに尾瀬を考える人を増やしてゆくのだと感じます。帰り道、講座をご一緒したご夫婦に枯れた湿原にノビタキがいるのを教えていただきました。頭や背の黒みが少なくなる冬羽の雄の違いなどを詳しく説明していただきました。ご経験を聞くと「30年だよ」とのお返事に頭が下がります。尾瀬ボランティアだけでなく知識もまだまだ若葉です。

今シーズンの活動を通して、尾瀬のたくさんの方の楽しみ方を知りました。山々や湿原の景色や四季の変化、花たちだけでなく、動物・野鳥・樹木・星(まだ未体験ゾーン)たくさん

んの発見があります。

ボランティアの平均年齢は63歳と聞きましたが、活動がたくさんの人たちに理解され、幅広い年代による活動の輪が広がることを願います。私も今の思いを大切にしながら、研修で一緒に活動した仲間との再会を楽しみに活動をして行こうと思っています。



▲ありがとう尾瀬清掃での記念写真（H22.9.11、筆者は右から3人目）

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●第15回尾瀬ボランティア総会の開催について

今年度開催の第15回尾瀬ボランティア総会と交流会を次のとおり開催します。参加をご希望される方は、2月16日（水）までに【ボランティア番号】【氏名】【交流会の参加・不参加】をメール、FAX、電話等でお申し込み下さい。

○開催日時／平成23年3月5日（土）

13時15分～17時30分

○開催場所／群馬県民会館ベイシア文化ホール

ール

○日程 13時15分～14時15分 講演

講師：奥只見郷ネイチャーガイド

桜井昭吉氏

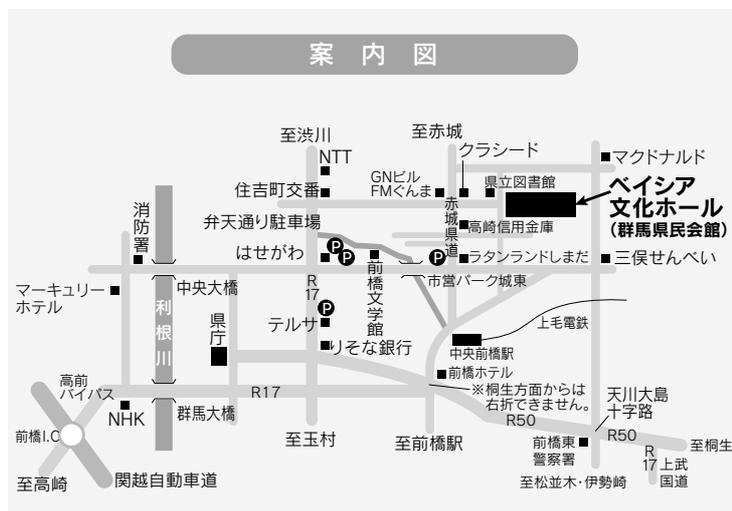
14時30分～16時15分 総会

議題：平成22年度活動実績

平成23年度活動計画案

16時30分～17時30分 交流会

※交流会は群馬県民会館ベイシア文化ホール内のレストランで開催します。なお、参加負担金として1,000円を当日いただきます。



●尾瀬ボランティア

登録更新について

尾瀬ボランティアの登録期間（2年間）が平成23年3月31日に終了しますので、今年度内に登録更新手続きを行います。詳細は別途郵送で通知しました資料をご覧ください。

○生物多様性条約第10回締約国会議

(COP10) 関連行事に参加しました○

生物多様性条約第10回締約国会議が、昨年の秋に名古屋市で開催され、生物多様性の分野の第一線で活躍している専門家が世界各国から集結し、生物多様性の保全、生物資源の利用、遺伝資源から生まれる利益配分に関することなどが話し合われました。

尾瀬保護財団では、COP10に関連して開催された「生物多様性交流フェア」にブースを出展し、尾瀬国立公園の豊かな自然やそれを保全する活動について、世界に情報発信しました。出展したブースの展示内容は次のとおりです。

① 「記念ハガキ作成ワークショップ」

尾瀬の生物多様性やその保全に関する取り組みをデザインしたスタンプをハガキに押しつけて持ち帰っていただきました。

② 「パネル展示」

尾瀬国立公園の概要、生物多様性保全に関する尾瀬での取り組み、山の鼻ビジターセンターで実施したCOP10記念観察会の報告などについて日本語と英語で併記したパネル展示を行いました。

③ その他

尾瀬国立公園誕生記念DVDを英語字幕を付けて放映したり、尾瀬国立公園の立体地図や木道模型の展示を行いました。



▲ワークショップでの記念ハガキ



▲日英併記したパネル展示

12日間の期間中、2,996名の方にブースにご来場いただき、尾瀬の自然やそれを守る取り組みについて紹介させていただくことができました。

また、同時開催された「地球いきものEXPO」では、尾瀬を紹介するステージ発表を行い、財団スタッフによる「夏の思い出」のウクレレ演奏では、来場者の方に□ずさんでいただくなど大変好評をいただきました。

COP10関連の各種イベントに参加し、尾瀬の優れた自然環境やそれを守る取り組み、そして尾瀬が持つ魅力を多くの方に伝えることができました。今後も、尾瀬保護財団では、尾瀬の自然保護と適正な利用への関心を高め、理解をいただけるように取り組んでいきます。



▲多くの方にご来場いただき、ありがとうございました
(出展ブース前にて)



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと思っております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種類	条件	特典
特別協賛寄付	3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを1年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で1年間使用
協賛寄付	3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を1年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額667万円余りをご寄付いただきました。平成19年より今回が4回目のご寄付となります。（通算寄付総額 28,459,469円）



第四銀行

2010年8月23日寄付

株式会社第四銀行 今年度は70万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 3,387,253円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで未永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



新潟証券株式会社

2010年8月23日寄付

新潟証券株式会社 今年度は25万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 1,202,792円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで未永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



東邦銀行

2010年6月11日寄付

株式会社東邦銀行 今年度は122万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 4,598,931円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで未永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR（企業の社会的責任）を重視して取り組んで参ります。



群馬銀行

2010年6月14日寄付

株式会社群馬銀行 今年度は115万円余りをご寄付いただきました。（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 23,143,158円）
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。



2010年6月11日寄付

DIAMアセットマネジメント株式会社 今年度は333万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 14,229,735円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



アサヒビール株式会社群馬支社 47都道府県において、アサヒスーパードライ缶、ビン1本あたり1円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成21年秋のキャンペーンに続く第3弾キャンペーンより564万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 14,722,562円)
寄付者からのメッセージ: アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や社会貢献を目標に掲げ、2009年春より、アサヒスーパードライ「うまい!を明日へ!プロジェクト「尾瀬の環境保全活動」」をスタート。売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいています。より多くの県民の皆様にも主旨を知っていただき、また、賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。



エース株式会社 エース株式会社様より30万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、2010年夏より全国で販売している「アウトドアスポーツ」ブランドの売上の一部をご寄付いただいたものです。今回を含め、今後3年間に渡りご寄付いただくことになっています。(初回寄付)
寄付者からのメッセージ: バッグ&ラゲージメーカーのエース株式会社は、尾瀬の貴重な自然環境を守る環境保護活動に協力させていただきたいとの思いから、スポーツバッグブランド「アウトドアスポーツ」の商品売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただきました。今後も多くの人々が尾瀬の美しい自然を楽しみ、その自然遺産が後生まで守り続けられることを心より願っております。



ベisiaグループ ベisiaグループ様より196万円余のご寄付をいただきました。ベisiaグループ様では、グリーン家電エコポイントの交換商品として商品券を提供しており、商品券交換金額の一定割合を、環境保全等を行っている団体等に寄付する制度のもとにご寄付いただいたものです。(初回寄付)
寄付者からのメッセージ: ベisiaグループは、「地域共生」を理念に自然環境保護にも積極的に取り組んでいます。今回の環境寄付に当たっては、当グループ発祥の地である群馬をはじめ、出店エリアの福島、新潟、栃木に広がる貴重な自然「尾瀬国立公園」の環境保全と適正利用を推進している尾瀬保護財団を選定させていただきました。群馬県が誇る豊かで美しい自然が、いつまでも多くの人々に楽しんでいただけることを、心より期待いたします。



株式会社コメリ コメリ緑資金の会様より50万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、ホームセンターを展開している株式会社コメリ様が、利益の1%を緑の育成の為に社会還元する目的で設立されたコメリ緑資金様より助成金としていただいたものです。今回を含め、今後3年間に渡りご寄付いただくことになっています。(初回寄付)
寄付者からのメッセージ: 「コメリ緑資金の会」は、日頃お世話になっている出店地域が美しい花や緑に囲まれ豊かであって欲しいと願い、平成2年より利益の1%を原資に助成活動を行なっています。尾瀬のかけがえのない自然遺産が、未来につながる次世代の子どもたちへと永遠に引き継がれることを願っています。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

**社団法人茶道裏千家淡交会
群馬県支部**
2010年9月17日寄付

社団法人茶道裏千家淡交会 第43回関東地区大会の大会決議に基づき、尾瀬の自然保護のため役立ててほしいと、50万円をご寄付いただきました。(初回寄付)

株式会社福島銀行
2010年7月5日寄付

尾瀬の自然環境保護のため、52万円をご寄付いただきました。これは、販売されているエコ定期の残高の0.01%相当額をご寄付いただいたものです。(通算寄付総額 7,580,000円)

株式会社上毛新聞社
2010年2月2日寄付

群馬県伊勢崎市にカラー印刷機能を充実させた新しい印刷センターを建設したのを記念し、24面からなる特集版を作成して配布した際の広告料の一部より50万円をご寄付いただきました。(初回寄付)

株式会社フレッセイ
2009年11月20日寄付

各店舗において、平成20年9月から平成21年8月までの間に販売した、対象商品の売り上げ1本につき1円をエコ基金として、49万円余りのご寄付をいただきました。(通算寄付総額 701,843円)

その他の寄付者のご紹介

※敬称略

群馬火曜会

イベント情報 ◆◆◆◆

第15回NHK「わたしの尾瀬」写真展

【大阪展】

- 開催期間 平成23年2月19日(土)～27日(日)
午前9時～午後6時
- 会場 NHK大阪放送局アトリウム
(大阪市中央区大手町4-1-20)
- その他 開催期間中の土・日曜日は、財団職員によるスライドトークを実施します。実施日などの詳細は尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください。

【柏崎展】

- 開催期間 平成23年3月21日(月)～31日(木)
午前9時30分～午後6時
(土・日曜日は午後5時まで)
- 会場 柏崎市立図書館2階展示ホール
(新潟県柏崎市学校町2-47)
- その他 3月26日(土)は、財団職員によるスライドトークを実施します。実施時間などの詳細は尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください。

※大阪展、柏崎展ともに入場無料です。

編集後記

今号は新年早々の発行ということで、一年の始まりにふさわしく、表紙に尾瀬の空に太陽が昇る写真を掲載させていただきました。今年一年、読者の皆さんと尾瀬にとって、光り輝く年になるよう願っております。本年もどうかよろしくお願いたします!! (小)

尾瀬の三二観察 ⑪

花びらって何？

今回はちょっと安心する話題です。
「ニリンソウの白い花びらは」などと説明しているとき「白のは花びらではなく萼片だ」と訂正された経験はありませんか。花びら=花弁 と思われていますが「花びら」とは、花の目立つ部分をさし示す一般に使われる言葉です。植物学的に定義された学術用語ではないので、文部科学省の「学術用語集」には載っていません。

ですから、ゴマナ(左上)の舌状花冠、ニリンソウ(右上)の萼片、コオニユリ(左下)の花被片、トモエソウ(右下)の花弁、みな花びらでいいのです。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。



年会費	○個人会員	1口 2,000円
	○ユース会員 (3月31日現在満22歳以下)	1口 1,500円
	○家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	○賛助会員 (団体・法人)	1口 10,000円

☆友の会の会員期間は加入から1年です！

友の会の会員期間はご加入から1年間です。来シーズン尾瀬に行こうと考えられている方、いつ友の会に入られても、1年間フルに楽しんでいただけます。

★特典について

友の会に加入された方に次の特典をご提供させていただいております。

- 初回加入時：友の会会員バッジ進呈、各種資料送付
- 財団機関誌：年4回配布
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、桧枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります)
- 財団販売品の会員割引販売 (通信販売)
- ※賛助会員の特典は財団機関誌の送付のみ



尾瀬保護財団

携帯サイト 情報配信中

緊急情報

お知らせ

ライブ映像

など

oze mobile